



一般社団法人 琉球フィルハーモニック



一般社団法人琉球フィルハーモニックは「音楽とともにまちと響きあう」を理念に、プロ演奏家の活動の場として「琉球フィルハーモニックオーケストラ」「琉球フィルハーモニックジャズプレイヤーズ」と、子どもたちの育成の場として「那覇ジュニアオーケストラ」、音楽による子どもの居場所づくりとして「ジュニアジャズオーケストラおきなわ那覇ウェスト」の運営をしています。さらに2019年4月より福祉部門を新設。同年7月には音楽療法に特化した「児童デイセンターこどもの城ミュージー」（児童発達支援・放課後等デイサービス）を開所しました。これまでに琉球フィルハーモニックオーケストラによる「県民クラシックコンサート」やバリアフリー公演「美らサウンズコン

サート」など、琉球フィルハーモニックジャズプレイヤーズによる難島や僻地でのジャズコンサートやワークショップ、2015年より5年連続で「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興記念賞」を受賞して「響け！復興へのハーモニー～つながる未来～」岩手・宮城・福島・沖縄の子どもたちによる合同オーケストラコンサート」を沖縄と宮城で4回開催するなど、多岐にわたる音楽活動を行っています。2020年11月にはこれまでの活動が認められ、「沖縄SDGs普及パートナー」として登録されました。これからも行政・地域住民・企業などとの意見交換や連携で、SDGsを意識した取り組みを行い、地域社会とともに持続発展する未来づくりに貢献します。



琉球フィルハーモニック事務局

〒901-0156 沖縄県那覇市田原 1-12-6
Tel 080-6497-8049 <https://ryukyuphil.org/>



飛びはねてもいい。
踊ってもいい。
寝転んでもいい
スピーカーの近くに座ってもいいし、
パーテーションに隠れて聴いてもいい。

ハンディキャップがある人にもない人にも
開かれた音楽会。

琉球フィルハーモニックオーケストラによる
「美らサウンズコンサート 2020」の記録

2020年11月29日 与那原町観光交流施設



来場者の
声

子どもたちが自由に動いたり、障害者の方が反応を返したり、演奏へのダイレクトな表現。
手話の二人もダンスのように見ている側も楽しかったです。



普段はじっと座れない子が舞台に釘付けで、終わった後も余韻に浸っていました。

マットスペースがあったので子ども連れには安心があった。

車イスだと一般のコンサート会場へ行くのはリサーチが必要で気軽に行く気持ちになれず、とても助かりました。



とても優しく聞こえました。
オーケストラの音、
お父さんも感動していました。
ふだんクラシックを聞かない



障害者を含めたコンサート鑑賞は初体験でした。
本来はあたり前の状況なのでしょうね。



音楽がコミュニケーションとつながっている
ということを感じました。
子どもが踊る姿を見て泣いてしまった。



沖縄にこんなすばらしい楽団があることを知らなかった。



前に座っている子どもたちの反応や動きが楽しそうで微笑ましく、参加できたことを嬉しく思います。

スタッフの方々がすてきな笑顔で迎えてくださりました。



指揮者の方がお話上手で、クラシックが身近に感じられました。



「スターウォーズのテーマ」「モルダウ」は感激で涙が出た。ブラボー!!と叫びたいくらいだった。

大好きな「G線上のアリア」でしめてくださって涙が出ました。



コロナ渦の中で希望の光を見いだせた気がします。

ゆいまーる

「ゆいまーる」とは沖縄の言葉で
「お互いに助け合いながら共生する」という意味

ミュージックプロジェクトとは

オーケストラの演奏会を楽しめるのは、健常者だけでいいのでしょうか。例えば、感動や喜びを大きな声を出したり飛び跳ねることで表現する障害者が、オーケストラのコンサートを生で鑑賞する機会はほとんどなく、その家族もまたいっしょに出かけるのをためらいがちになります。「ゆいまーるミュージックプロジェクト」は、障害者やそのご家族が気兼ねなく安心してコンサートを楽しめる環境をつくるためのチームを結成し、そのノウハウを全国に広げることを目的としています。



美らサウンズコンサート 2020
2020年11月29日(日)

A公演わくわく 13:30開演
B公演クラシカル 17:30開演

会場：与那原町観光交流施設アリーナ
対象：全ての障害・難病のある方、ご家族・介護の方、一般

入場料：無料

気軽にオーケストラを楽しむ
A公演わくわく

指揮/松元史康
ナビゲーター/宮崎直美
ゲスト/大城友弥、
コンスタントグロウ

【オーケストラ演奏】
G線上のアリア
「アルルの女」第2組曲より「ファランドール」
ゲーム音楽「三国志14」より「中華一統」
バレエ組曲「くるみ割り人形」より「花のワルツ」

【音楽療法パフォーマンス】
大城友弥（ありがとう、大切なもの）
コンスタントグロウ（オセロ、未来のヒカリ、その先へ）

【オーケストラ演奏】
パブリカ
映画「スターウォーズ」より「メインタイトル」

本格的にオーケストラを楽しむ
B公演クラシカル

指揮 & ナビゲーター/松元史康

【オーケストラ演奏】
安里屋ユンタ幻想曲
交響曲第5番「運命」より第1楽章
ゲーム音楽「三国志14」より「中華一統」
威風堂々第一番
小組曲（小舟にて、行列、メヌエット、バレエ）
連作交響詩「我が祖国」より第2曲「モルダウ」

主催：文化庁 共催：与那原町 与那原町教育委員会
制作：一般社団法人琉球フィルハーモニック
後援：沖縄県 沖縄県社会福祉協議会 与那原町社会福祉協議会
琉球新報社 沖縄タイムス社 NHK沖縄放送局 琉球放送
琉球朝日放送 沖縄テレビ ラジオ沖縄 (株)エフエム沖縄
協力：沖縄ケーブルネットワーク株式会社

障害当事者や音楽療法士、社会福祉関係者など、知見やネットワークを持ち寄る「ゆいまーるミュージックプロジェクト」チームを立ち上げました。

Q 聴覚に障害がある人の音楽の楽しみ方とは？

A 中途失聴者である私も障害を持って初めて気づいたのですが、聞こえない・聞こえにくい状態でも、音楽との関わりは密である方は結構多いんですね。音楽に求める体験（気持ちの高揚）の根っこにあるものは同じだと感じています。

難聴者：補聴器装用に加え、補聴援助システム（テレコイル/Roger システム）といった、曲の音のみを聞き取ることができる器具を使い楽しんでいる方が多いです。また曲と歌が合わさった状態だと聞き取り辛いから、歌のみ（独唱など）、曲のみといったふうに、あえて分けて聞いている方も。私は初めて聞く曲は歌詞を見ながら聞くようにしていますが、そうすることで不思議によりリアルに楽しく音楽を楽しむことができます。ろう者：沖縄には「琉球壺太鼓」というろう者の演奏者の団体があるように、太鼓の振動や楽曲のリズムを感じて楽しんでいる方も。洋楽はリズムが邦楽と比較して独特なものが多いので、YouTubeなどで未体験のリズムを探して楽しんでいる方も多いようです。



障害当事者家族
照屋 尚子
(沖縄県教育委員)

Q 当事者家族から見たコンサートのよさは？

A なんと言っても、動いたり、声を出しても周りの目を気にせずに安心してコンサートに参加ができることです。本人だけではなく、家族も普段なら子どもを預けてまではコンサートに行かないという方も多くいます。家族や支援者もいっしょに楽しめるコンサートです。



聴覚障害当事者
渡久地 準
(NPO法人美ら島きこえ支援協会事務局長)

Q コンサートを開こうと思ったきっかけと選曲は？

A オーケストラ公演を障害者の方に鑑賞していただく際に、車椅子やストレッチャーの受け入れ、障害種によっては声を上げたり、動き回ったりするなど多種多様な反応があり、受け入れに限界がありました。障害者やご家族が安心して鑑賞できる環境づくりの必要性を感じました。選曲に関しては小さなお子さんからお年寄りまで楽しめように、多くのジャンル（クラシックの名曲、映画音楽、ポップス、ゲーム音楽など）を取り入れ、全体の構成は音楽療法士にアドバイスをいただきながら選びました。



地域の役場担当者
知念 淳二
(那覇原町福祉課職員/社会福祉士)

オーケストラ代表者
上原 正弘
(一般社団法人琉球フィルハーモニック代表理事)



Q 視覚に障害がある人にとっての理想の音楽会とは？

A 楽器にふれる。楽器の近くで音の出方、振動を通して感じられる。解説があるなど、視覚障害者は聞き、触れて、体感できる内容がいいと思います。個人的に第2部は指揮者の方が解説もしていたので、想像しながら楽しむことができました。YouTube配信を今後も両立できたら行きたくても行けない方にとって励みになると思います。



視覚障害当事者
内間 由美
(鍼灸あんまマッサージ指圧師/中區漢方子宮ケアセラピスト)



評価設計者
落合 千華
(ケイスター株式会社)

Q 関わってよかったことは？

A 多種多様な障害当事者や専門職の方々との意見交換できる場にいるだけでも学びになります。“可能性を拓く”機会に参画できる喜びに感謝です。



身体障害当事者
仲根 建作
(NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会理事長)

Q 関わってよかったことは？

A 当施設はバリアフリーなため、車イスの方達がスムーズに入場できたり多目的トイレもあるのでイベントの会場としてよかったと思います。



施設管理者
具志堅 光
(那覇原町観光交流施設館長)

Q 関わってよかったことは？

A 他の障害者芸術文化支援の事業に何度か足を運んだことがありますが、その時には感じられない、当事者の視点と意識、丁寧な設計、地域でやることの意味を感じます。先進的で優れた取り組みに調査例として携わることができ嬉しく思っています。

Q 関わってよかったことは？

A 見えない音楽だからこそ、いろんな形を変えてたくさんの人にメッセージを伝えることができる本当に素晴らしいイベントだと思います。沖縄県内には他にも障害を抱えて活動しているアーティストがいるので、その方たちを推薦したいと思っています。



身体障害当事者/ゲスト出演
謝花 勇武
(コンスタントグロウ リーダー)

その他のメンバー

大学教授
島村 聡
(沖縄大学 福祉文化学科 教授)

まちづくり
宮城 潤
(那覇市若狭公民館館長)

音楽療法士
高良 幸人
(児童ディセンター こともの城ミュージック 所長)

コーディネイター
樋口 貞幸
(ファシリテーター)

コンサート開催までの流れと チェックポイント



1 気軽に楽しめるA公演、本格的に楽しめるB公演の、2部に分ける。



6
カ月前

- プロジェクトチームの立ち上げと第1回会議
- 演奏者、司会者へのオファー
- 対象とする障害種に合わせた会場の選定
(駐車場の確保、車イスのまま入場できるか)
- 来場者の障害種の決定

2 どんな曲目を届けるか。



- 出演者、ゲスト、司会者、開催プログラムの決定
- ボランティアスタッフ募集
- 地域の消防署に概要を伝え、当日の救急要請に備える
- 医療関係者(介護士、看護師)などに協力依頼
- ポスター、フライヤーの作成
- プロジェクトチームでの情報交換にSNSグループなどのツールを活用

4~5
カ月前

3 コンサートの告知と、実施シミュレーション。

3~4
カ月前

- コンサートの告知、プレスリリース
- 予約開始
- 会場の下見、実施シミュレーション
- 会場の機材の搬入搬出や、入場者の出入り口を確認
- 備品、スタッフの動線を確認
- 会場トイレなどバリアフリー状況を確認し、対応策を講じる

4 事前予約時に、障害種が把握できるようにする。

2
カ月前

- 予約状況の確認
- 来場者の障害種の把握(特記事項などの確認も)
- ボランティアスタッフ、会場スタッフの確定
- 広報状況の確認(フライヤー配布先の在庫確認も)

5 車イスやストレッチャー、ベビーカーなどの数や予約状況をもとに動線を確認。

- ボランティアリーダーとの打ち合わせ
- アンケートの質問内容を決定
- 予約状況をもとに動線を確認

1
カ月前



6 オーケストラ演奏者に、障害の特性についてレクチャー。

前日



- ゾーニングをもとに会場設営
- 施設にない設備をレンタルしている場合は、その対応
- 演奏リハーサルで、音響や舞台設営を確認
- オーケストラ演奏者に、障害などの特性による反応の違いについてレクチャー

7 当日/ 来場した人がはじめに会うのはスタッフ。笑顔で迎える。

- ボランティアリーダーはボランティアと協力しながら対応する
- 受付で予約を確認し、障害の種別に応じた対応をする

8 コンサート後 振り返って、次につなげる。

- 広報、会場、演奏者、プログラム内容、ボランティア、報道など、コンサートの振り返り
- アンケート回答の分析



コンサートの会場配置

- 受付でテレビなどの取材が入っていることを説明。
- シャワールームをおむつ交換場所にセッティング。
- 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン作成非接触受付のためにQRコード発行

- 写真やビデオに映りたくない人に「撮影NGリボン」を配布。

- 聴覚障害者のために、手話通訳やUDトークを活用。

- コンサートホールの音に近づけるための音響設備。

- 呼吸器などのための電源の確保。



協力/沖縄ケーブルネットワーク株式会社

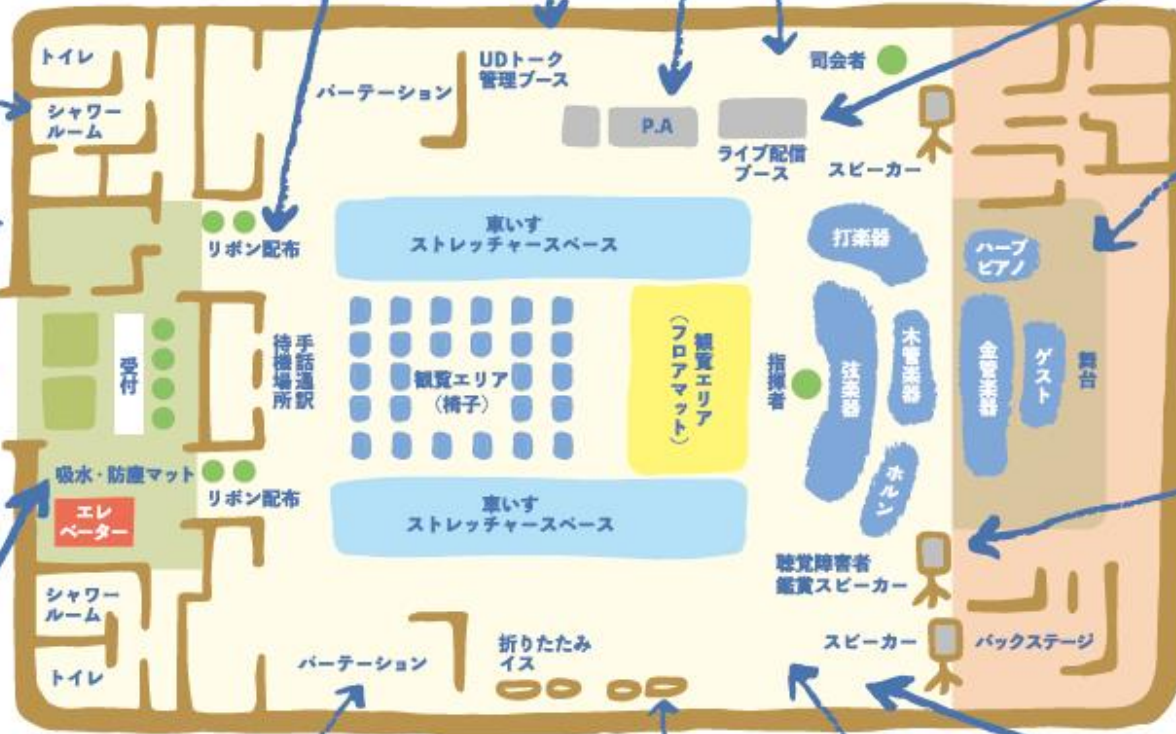
- オーケストラを見やすくするため、舞台とフロアを併用。



- 聴覚障害者が鑑賞できるように、専用スピーカーを設置。



- フロア保護シートを敷き、土足での入場、補助犬入館を可能に。



- 吸水・防塵マットを敷き、車いすのタイヤを拭かなくても入場できるように。



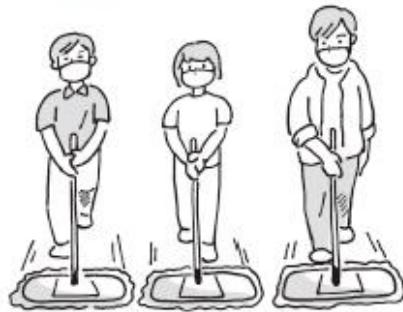
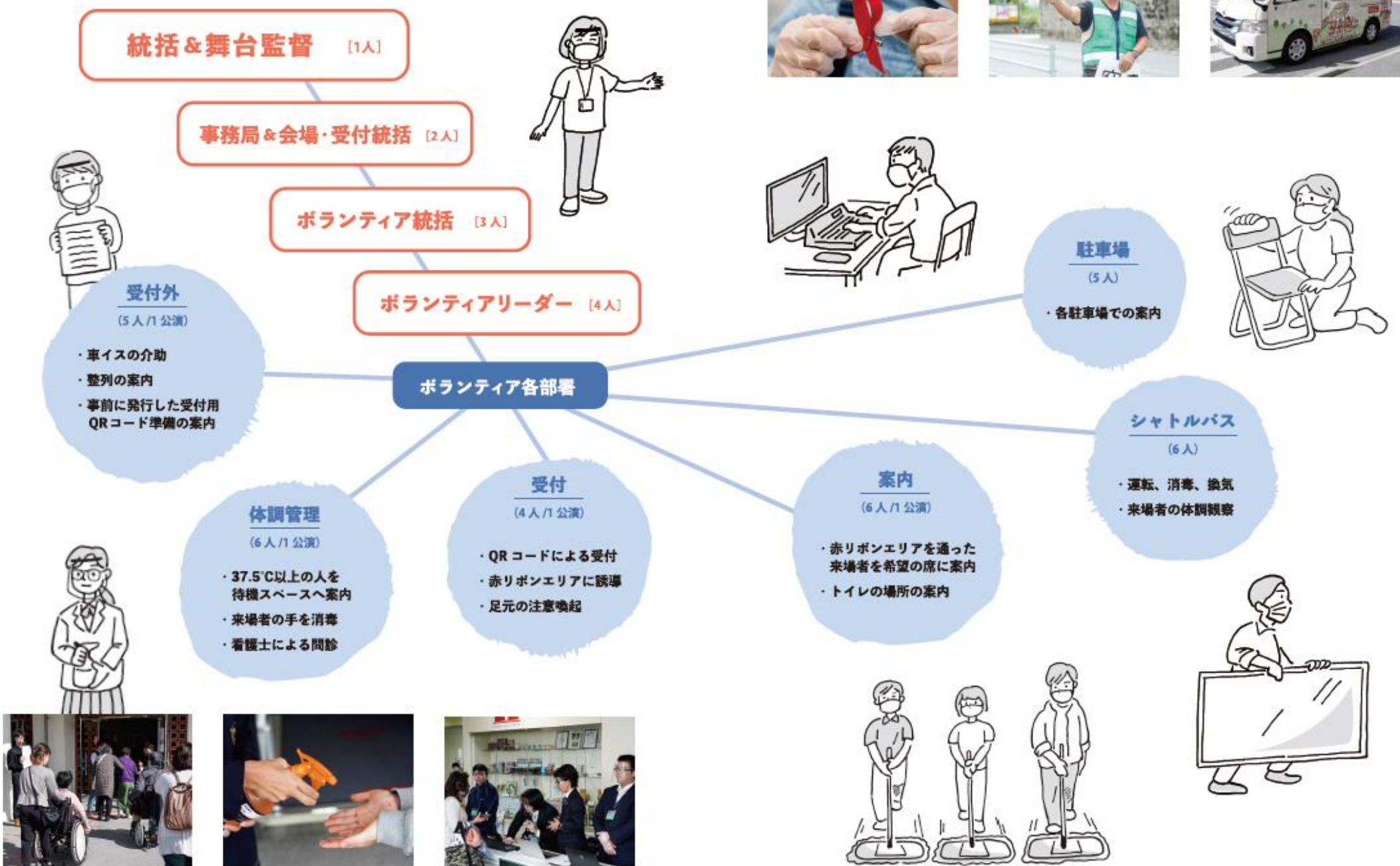
- 周りの視線を気にせずに鑑賞できるパーテーションを置く。



- 臨機応変に対応できるように予備のイスを用意。

- リラックスして鑑賞できるフロアマットを敷く。

🎵 スタッフ体制



コンサートの検証



300名ほどのご協力をいただきました。

調査の目的

- 1 事業の重要なポイントと課題を明らかにする
- 2 今後の事業改善、持続的な組織運営
- 3 その他の地域・組織への展開に活用するため

障害の有無、当事者との関係性を教えてください。



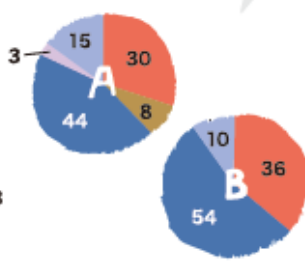
[A公演]		[B公演]	
20	障害・難病がある方	12	
43	ご家族の方	31	
3	介助者・ヘルパーの方	3	
34	その他	54	(%)

障害の種別を教えてください。



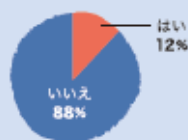
[A公演]		[B公演]	
25	肢体不自由	24	
3	視覚	3	
6	聴覚	10	
0	内部	24	
30	音声、言語、唱喩機能	20	
25	知的	7	
8	発達	0	
3	精神	12	(%)

何でコンサートを知りましたか？

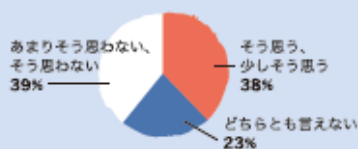


[A公演]		[B公演]	
30	チラシ・ポスター	36	
8	Web、SNSなど	0	
44	家族・知人の紹介	54	
3	昨年度のコンサートで知っていた	0	
15	その他	10	(%)

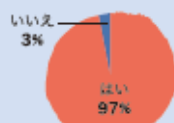
車イスは利用していますか？



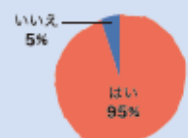
日ごろ、芸術文化に触れる機会はありますか？



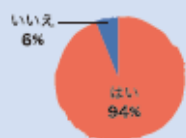
またコンサートに参加したいですか？



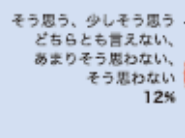
安心して参加できましたか？



多様な人への理解が深まりましたか？



今後、芸術文化に触れる機会を増やしたいですか？



調査を担当した落合千華氏(ケイスリー株式会社)より

昨年度と比較し、コロナ禍にも関わらず300名超(うち、障害者とその介助者が5割程度)と多くの方が参加されました。その内、日ごろ芸術文化の機会があるという方は4割未満にとどまった一方、今回のコンサートを受けて「今後、芸術文化の機会を増やしたい」と回答した方は約9割となりました。「多様な人への理解が深まった」という声は9割を超え、今回のコンサートが芸術文化体験、多様な人への理解を深める貴重な機会の一つとなったことがうかがえます。

コンサートの実施内容・運営方法についての観客からの声は概ね肯定的で、「コンサートにまた参加したい」「安心してできた」の回答は97%、95%。また座席順の管理や出入口での検温・消毒の徹底など、新型コロナウイルスへの対応についても、観客の95%が問題なかったと回答し、コロナ禍におけるコンサート運営にも本コンサートの実施体制が一つのヒントになりうると思えます。

観客だけでなく、制作・実施運営側の声でも「バリアフリーへの意識の向上があった」「多様な人への理解が深まった」という回答はそれぞれ8割を超え、各関係者にとっても学びの深い取り組みであったと言えます。

こうした成果の実現には、①障害当事者を含む大学教授、福祉関係者、アーティストを含めた多様な関係者から成り立つプロジェクトチームが、②昨年度コンサートにおける観客、関係者からの声を参考にしながら、③安全・安心を中心に据えて入念な準備・多様な選択肢を提供するため、対話を重ねてきたことがあったと考えられます。

今後の事業改善や持続的な組織運営、その他の地域・組織への展開においては、こうしたコレクティブなプロジェクトチームで評価を活用しながら対話を行っていくことが重要であると言えます。